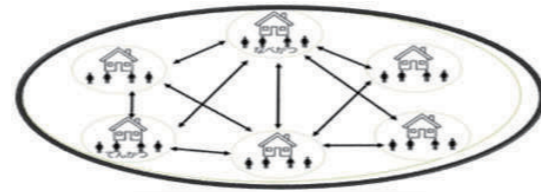


仲良し4人組（畿央大学）  
木村知希 田中敦 濱野悠大 山口真由

きたまちをより居心地がよく、楽しく住めるまちにしていくにはどうすればよいだろうか。きたまちには「個性ある方法」で居場所づくりに取り組んでいる人々がいる。私たちはそのコミュニティの在り方に着目し、新しい居場所のカタチの提案を行う。

#### 【研究報告のポイント】

- ✓ 「個性あふれる居場所」づくりに取り組んでいる方たちに活動のやりがいを伺ったこと。
- ✓ 居場所づくりに取り組む人には、それを支える多くの人たちが存在していることが分かった。
- ✓ 小さなコミュニティがいくつも存在することでまち全体では広い範囲で多くの人とつながることができること。
- ✓ そのネットワークが知り合いの輪を広げ、地域社会を豊かにしていること。
- ✓ 人が人を呼び、新たな知識と経験が人とともに循環するこの在り方をステイト・オブ・ジ・アート・サークルとよぶ。



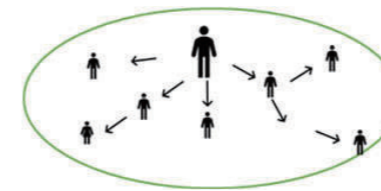
#### 【3つのコミュニティ調査報告】



■活動のきっかけ  
元々店をやることは決めておらず、綺麗に整備して人に来てもらうことができる空間ができたから。

■良かったこと  
いろいろな人に応援してもらうことができ、店を始める上で、凄い心強かった。

■やりがい  
家業を引き継ぐ意志が原動力となっている。



■活動のきっかけ  
人の呼び込みや、活動内容に興味を持ち参加した。

■やりがい  
勤め人として培ってきた知識や経験を活かすことが自己の充実になり、コミュニティ活動の活性化につながる。  
地域への愛着が、地域の歴史を若者に伝えたい、語りたいたいという原動力となっている。



■活動のきっかけ  
集まって何かをしたい、やりたいことがあったので造ったその結果、自分たちが楽しめる、拠り所となるような場所になった。

■どのような空間か  
部屋ごとに機能があり、4人それぞれに担当がある。  
色々な人が集まり、親戚の家のように、自由に過ごせる空間。